

# ～自動車に雪に埋まった場合の危険性～

## 1 自動車が雪に埋まるとどうして危険なの？

自動車のマフラー周辺が雪に埋められると、逃げ場を失った一酸化炭素を含む排気ガスが、雪がない自動車の下部に溜まります。そして、自動車のエアコンの外気導入口や車体の隙間から車内に流れ込みます。その結果、車内の一酸化炭素濃度が上昇することとなり、一酸化炭素中毒の危険性が高まります。

## 2 「一酸化炭素中毒」とは？

エンジンの排気ガスには有毒な一酸化炭素(CO)が含まれています。一酸化炭素は空気より軽く、無色・無臭であるため、危険の察知が非常に難しい有毒ガスです。一酸化炭素は吸い込むと頭痛や疲労感がみられ、症状が進むにつれ、激しい頭痛、吐き気などが起き、重症になると昏睡状態に陥り、最終的には心肺機能が停止し死に至ります。

## 3 一酸化炭素中毒にならないための対策は？

### (1) できるだけエンジンを切る

エンジンがかかっていなければ排気ガスは発生しません。立ち往生時等、車内にとどまる際にはできるだけエンジンを切りましょう。

### (2) マフラー周辺の定期的な除雪

エンジンをかけている時は、一酸化炭素中毒を防止するためにマフラー周辺を定期的に除雪しましょう。冬期間は有事に備え、防寒着やスコップ等の除雪用具を自動車の積載しておくことが重要です。

### (3) 不要な外出を避ける

冬期間は日頃から天気予報をよく確認しておくとともに、不要な外出を避けるようにしましょう。

## <自動車に立ち往生してしまった時は>

大雪などで道路上で自動車が動かなくなってしまった時は、110番通報をして自動車の状態を知らせるとともに、自己の安全を第一に考えた行動を心掛けましょう。

